

日本臨床検査専門医会

平成 23 年度第一回全国幹事会議事録

平成 23 年 1 月 21 日

日本臨床検査専門医会 平成23年度第一回全国幹事会議事録

開催日時：平成23年1月21日（金）15時～17時

開催場所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：渡辺 清明会長、佐守 友博副会長、土屋 達行（途中退席）、
村田 満、山田 俊幸、矢富 裕（途中退席）、
東條 尚子各常任幹事、
小田桐恵美、康 東天、木村 聡、熊坂 一成、三家登喜夫、
諏訪部 章、田窪 孝行、日野田裕治、宮澤 幸久各全国幹事、
水口 國雄監事

欠席者：渡邊 卓副会長、安東由喜雄、尾崎由基男、北島 勲、
幸村 近、小柴 賢洋、舩渡 忠男、前川 真人、松尾 収二、
満田 年宏、三井田 孝、盛田 俊介各全国幹事、高木 康監事
事務局：藤本 梨恵（敬称略）

定刻、佐守 友博副会長は議長席につき、開会を宣し、直ちに議案の審議に入った。

審議事項

第一号議案 議事録署名人選任について

佐守 友博議長は本会の議事録署名人の選任を議場に諮ったところ満場一致をもって次のものを選任した。

議事録署名人 諏訪部 章、木村 聡各全国幹事

佐守副会長に代わり渡辺 清明会長が議長席につき、挨拶の後、引き続きの審議に入った。

第二号議案 平成22年度会計報告

議長は、平成22年度の会計報告について、その詳細を東條庶務・会計幹事に説明させた。水口國雄監事より、平成23年1月20日（木）、日本臨床検査専門医会事務局において平成22年度日本臨床検査専門医会会計監査を実施し、収支決算書、会計書帳簿、領収書その他の帳簿につき詳細な監査を行い適切に運営されていることを確認したことが報告された。以上より、これを議場に諮ったとこ

ろ、全員異議なく承認可決した。なお、会計報告については、本議事録の末尾に添付する（資料1）。

第三号議案 第39回日本臨床検査専門医会総会における講演会について

議長は、第39回日本臨床検査専門医会総会における講演会の講演内容について決定する必要がある旨を述べた。第58回日本臨床検査医学会学術集会とのプログラムの重複を避けたため、大会長である小出典男岡山大学教授とも相談のうえ、次回幹事会で検討することとなった。

第四号議案 第23回春季大会について

議長は、第23回春季大会の大会長を選任する必要がある旨を述べ、過去の開催順序に鑑み関東地区が開催候補地域である旨を説明したところ、下記の者を推薦したい旨の発言があったため、議長がその賛否を諮ったところ、満場一致をもってこれに賛成した。よって議長は、下記の者を第23回春季大会長とすることに承認可決された旨を宣した。

渡邊 卓 教授 （杏林大学病理系専攻臨床検査医学分野）

第五号議案 会費未納者の対応について

議長は、東條庶務・会計幹事に4年以上の会費未納者の状況を報告させた。会員数を確保するため、繰り返し会費納入を促す努力を続けると述べた。また、現在2年以上会費未納者にはLabCP、JACLaP News、WIREを停止しているが、WIREは経費がかからず、むしろ会費納入の連絡もできることから、WIREの発信は継続したい旨の提案があった。

これに対し、熊坂全国幹事より、すでに異動をして検査にかかわっていない会員も含まれることから、会員継続の意思を確認すべきとの意見があった。

議長が、4年以上の会費未納者に対しては会員継続の意思を確認すること、会費未納者であってもWIREの発信は継続することを議場に諮ったところ、満場一致をもってこれに賛成し、承認可決された。

第六号議案 臨床検査専門医受験資格取得方法に関する日本臨床検査専門医会の考え

議長は、病院等の検査部の責任者（検査部長）で、非専門医のまま管理業務を行っている医師が、臨床検査専門医の資格を取得できる現実的な方策の整備を求める書面を、日本臨床検査医学会に提出することについて、渡邊 卓副会長が欠席のため代わりに東條庶務・会計幹事に説明させたうえ、審議した。

日本臨床検査医学会に対し、本主旨を提案することを議場に諮ったところ、満場一致をもってこれに賛成し、承認可決された。ただし、文章の内容については渡邊 卓副会長を中心に再検討することとなった。

また、次回の日本臨床検査医学会 臨床検査専門医・管理医審議会に木村 聡 専門医数増加方策検討 WG 委員長も参加させていただき、本提案について説明することとなった。

本件議案については以下の意見があった。

(渡辺 清明会長) 他の分野では専門医をとっていない医師はいない。その中で検査部門は異色な分野。非専門医のまま管理業務を行っている医師に専門医を取得してもらい、検査部のクオリティを上げたい。

(熊坂 一成全国幹事) 検査部長で検査室に顔を出さない人は排除すべき、若い人を入れるべきである。管理医の資格は、この目的で作られたのではないか。

(土屋 達行常任幹事) 管理医を取得後、他施設での研修があれば受験資格は認められているので道はある。

(木村 聡全国幹事) 特に、地方の医師から、他施設での研修が困難で、専門医資格の取得要件を満たすことが難しく、専門医の受験資格が得られないとの意見が多い。

(村田 満常任幹事) 研修期間を短縮する道は作れない。

(宮澤 幸久全国幹事) 施設基準は厳しい審査を受ける方向にある。

報告事項

1. 平成 23 年度会長・監事選挙 選挙管理委員について

渡辺 清明会長は、平成 23 年度会長選挙の選挙管理委員に以下のものを指名した。

池田 均 准教授 (東京大学大学院医学研究科 臨床病態検査医学)

小田桐 恵美 教授 (東京女子医科大学 臨床検査科)

菊池 春人 准教授 (慶應義塾大学医学部 臨床検査医学)

佐藤 尚武 科長 (順天堂東京江東高齢者医療センター 臨床検査科)

渡邊 眞一郎 部長 (横浜市立大学医学部附属病院 臨床検査部)

2. 各種委員会報告

① 情報・出版委員会

矢富情報・出版委員長が途中退席したため東條庶務・会計幹事より、以下の報告があった。LabCP、JACLaP News、WIRE は順調に発刊している。平成 23 年 4 月から 25 年 3 月までの日本衛生検査所協会誌「ラボ」の新シリーズは「検査を知る」として、一般の方々にも馴染みのある検査項目の基礎と最新情報を知らせる内容を予定している。

なお、佐守副会長より、昨年度の「ラボ」の掲載記事に科学的エビデンスに乏しい記事の掲載があったので、日本衛生検査所協会の広報委員会に記事の検閲をすべきことを伝えたとの報告があった。

(木村 聡全国幹事) 平成 22 年 8 月に要覧を発刊したが、日本臨床検査医学会の名簿も 2 ヶ月後に発刊された。両方の会員になっているものも多く、発刊時期をずらした方がよいのではないか。

② 教育研修委員会

山田委員長より、平成 23 年度の教育セミナーの開催予定について以下の報告があった。

記

講義形式セミナー

開催日時：平成 23 年 4 月 23 日（土）

開催場所：順天堂大学

実習形式セミナー

開催日時：平成 23 年 5 月 8 日（日）

開催場所：自治医科大学

第一回生涯教育講演会

開催日時：平成 23 年 6 月 10 日（金） 15 時から 17 時

開催場所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）

講義内容：

1 検査室のリーダーシップ入門

演者：昭和大学横浜北部病院 検査部長 木村 聡先生

2 日常の医療安全と医療倫理

演者：岩手医科大学附属病院 医療安全推進室長 高橋 智先生

会費：2,000 円

また、昨年、実技講習のアンケートを実施したが、その後の検討は行っていない。専門医試験の内容が変わるかもしれないため様子を見ているとの報告があった。

なお、生涯教育講演会については、日本臨床検査医学会臨床検査管理医にも通知し、積極的な参加を促してはどうかとの意見があった。

③ 資格審査・会則改定委員会
(土屋 達行委員長) 特になし。

④ 渉外委員会

佐守 友博委員長より、平成 22 年 11 月 11 日に開催された「臨床検査の日」大阪バージョンの報告があった。「プリティィ発刊 15 周年記念イベント」にブース参加し、シスメックス社のアストリム（簡易 Hb 測定）による貧血検査と臨床検査専門医による健康相談を行った。約 900 名がブースを訪れた。協力者は 33 名（臨床検査専門医 8 名、初期研修医 3 名、臨床検査技師 8 名、臨薬協 4 名、日衛協 9 名、取材 1 名）。

また、平成 23 年 7 月 22 日に予定している第 28 回臨床検査振興セミナーは、国外の臨床検査医の事情をテーマとし、韓国から演者の招へいを検討している旨の報告があった。

⑤ 保険点数委員会

渡辺 清明委員長より、平成 22 年度第三回保険点数委員会（日本臨床検査医学会 臨床検査点数委員会との合同開催、平成 22 年 11 月 15 日）の報告があった。平成 24 年度診療報酬改定にむけ、内保連に提出する提案書の作成を、両学会で分担した。専門医会からは、以下の提案書を内保連に提出した（第一次提出締切：平成 22 年 12 月 10 日）。今後、3 月 11 日（金）までに、最終版の提出を行う予定である。

記

1. 生理機能検査管理加算（未収載項目）
2. 血液採取（既収載項目）
3. 末梢血液像（既収載項目）
4. 尿沈渣顕微鏡検査およびフローサイトメトリー法による尿中有形成分測定（既収載項目）
5. 染色体検査（既収載項目）

6. 悪性腫瘍遺伝子検査（既記載項目）
7. 時間外緊急院内管理加算（既記載項目）
8. 血液細胞核酸増幅同定検査、Major bcr-abl mRNA 核酸増幅検査、免疫関連遺伝子再構成、WT 1 mRNA 核酸増幅検査、CK19mRNA、UDP グルクロン酸転移酵素遺伝子多型（既記載項目）

また、内保連の検査関連委員会（米山彰子委員長）が生体検査 WG を立ち上げ、相対的評価により抽出した増点希望項目のコスト調査を行っている、専門医会の施設も調査に協力している旨の報告があった。

（諏訪部 章全国幹事）チーム医療との関連で、糖尿病教室などで糖尿病療養指導士の資格のある臨床検査技師が指導を行っても加算が取れない現状がある。また、栄養管理実施加算の施設基準に臨床検査技師が含まれていない。「臨床検査技師は配置されていることが望ましい」とされており、臨床検査技師を必須条件に含めることを提案したい。

諏訪部章全国幹事の提案については、次回の保険点数委員会に諮るとともに、臨床検査振興協議会 B グループの担当分野であるため、宮澤 幸久 B グループ委員長に検討を依頼した。

⑥ 専門医数増加方策検討 WG

木村 WG 委員長より、第 2 回 WG 会議（平成 22 年 9 月 11 日開催）の説明があった。専門医をもっと知ってもらうために、専門医の活動内容をホームページで紹介、イベントグッズを作成し頒布、専門医配属によるメリットの啓発などの提案があった。専門医受験予定者への対応として、試験問題の例題と解答集の作成、模擬試験の実施、超音波検査、感染症検査の研修機会を提供するなどの提案があった。また、意欲はあっても受験資格を取得できない医師への対策として、受験資格要件の緩和、施設要件の緩和、他学会の専門医取得者への優遇策の提案があった。

⑦ 専門医広告啓発促進 WG

（村田 WG 委員長）特になし

3. 平成 22 年度第 3 回第 4 回臨床検査専門医・管理医審議会報告

東條庶務・会計幹事より、以下の報告があった。第 3 回審議会（平成 22 年 11 月 13 日）で、臨床検査専門医会が主催する『生涯教育講演会』を専門医更新の

必須要件を満たす講習会のひとつとして認定していただけるよう専門医会から提案書を提出した結果、リスクマネジメントを含む講演内容を条件に了承された。第4回審議会（平成22年12月17日）で、平成23年6月10日（金）15時から17時、アイーナ（いわて県民情報交流センター）において、1. 検査室のリーダーシップ入門、2. 検査に関するリスクマネジメントについて講演内容とした、第一回生涯教育講演会を開催する予定である旨を報告し、了承された。

4. 第21回春季大会について

諏訪部 章大会長から、第21回日本臨床検査専門医会春季大会（平成23年6月10日（金）から11日（土））のプログラム（案）の報告があった。

5. 第22回春季大会について

日野田 裕治大会長から、第22回日本臨床検査専門医会春季大会について、日程ならびに開催場所を近日中に決定するとの報告があった。また、プログラムについては、会員からアンケートをとることも考えている旨の説明があった。

6. 検体検査実施料に関するアンケート調査のお願い

渡辺 清明保険点数委員会委員長より以下の説明があった。臨床検査振興協議会の医療政策委員会から、「検査の性能とその診療報酬への反映」というテーマが討議されており、アンケート調査への協力依頼がきている。幹事、監事、保険点数委員会委員にメールで配信したので、協力をお願いしたい。

7. 平成23年度行事予定について

東條庶務・会計幹事より、平成23年度の行事予定の説明があった。なお、予定表については、本議事録の末尾に添付する（資料2）。

以上をもって全議案の審議並びに報告を終了したので、議長は閉会を宣し解散した。

議事録署名人

平成 23 年 2 月 28 日

諏訪部 章 印

平成 23 年 3 月 22 日

木村 聡 印